



授乳について

1.「断乳」と「卒乳」について

「断乳」と「卒乳」は言葉の意味が異なります。2002年頃までは母子手帳にも「断乳」という言葉がありましたが、現在の母子手帳にはその言葉ではなく、言葉としても使われる頻度は減少してきました。

- ・断乳 → 断乳とは、ある時点で乳児の状況に関わらず、母乳育児を**中止**することを意味します
- ・卒乳 → 卒乳とは、乳児がいつの間にか母乳を飲まなくなったり、いつの間にか母乳がでなくなる状態で**自然**に母乳を飲まなくなることを言います

2.何故小児科と小児歯科で聞く話が異なるのか？

小児科医の立場

過去数十年の研究で、母乳育児を長く続けることを母親と乳児の双方に結果として健康面、また精神面において良好な影響に繋がることが明らかになってきました。

具体的に、子供側は成人後の糖尿病、肥満、心筋梗塞などの生活習慣病が少なく、母親側は将来的な乳癌、卵巣癌、子宮体癌、生活習慣病、高齢者の骨折、アルツハイマー病が少ないという報告があります。

小児歯科医の立場

小児歯科に携わる歯科医は、小児の口腔内および顔面の正常な発達・発育を中心に健康な成長ができる事を第一に考えております。その中で、むし歯予防は大きな課題になってきます。むし歯予防という観点からは授乳は大きな注意項目になってくるのは事実です。ある程度の時期がきたら小児歯科に携わる歯科医が授乳を止めるように薦めるのはこういった理由があります。



3.授乳はいつまでしていいのか？

- ・歯が萌える時期はそれぞれ個人で異なる
- ・むし歯が多いか全くない子供では状況が異なる
- ・仕上げ磨きの状態、環境にもよる
- ・授乳後そのまま寝てしまうかどうかにもよる



各患者様のお口の中の状況は異なるので、授乳でのメリットを上回るデメリットが生じる場合には、母乳育児を中断することを勧めることになります

詳しくは当院へご相談ください



ふたぎ歯科医院

